



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞

私たちのフィールド

～散歩での出会い～

勝田 緑

私たちはほとんど毎朝竜田公園から大和川へ散歩（バードウォッチング）に行きます。散歩の時の格好は地域のパトロール隊と書いたジャンパーを着、その腕に防犯の腕章を付けて、双眼鏡・カメラを首にぶら下げています。子供たちの登校の時間なので見回りも兼ねているのです。途中出会う人達と（犬たちも）笑顔で挨拶します。飼い主の名前は分からないのですが、犬を通してのお知り合いです。「ポチのママ」「レオちゃんのおばあちゃん」「ごんた」「ビク」「マリちゃん」「コジロウ」等々いっぱい。以前に

「コジロー」だけが雨の中をうろうろしていました。どうも家から抜け出したようでした。早速役場で聞いてやっと飼い主さんに巡り合いました。

飼い主さんの姓は「佐々木」で犬の名は漢字で「小次郎」だったと分かり後で大笑い。こんな出来事も掲示板やブログに書いています。

掲示板は家が公園の前なので、子供たちに見てもらおうと始めたのですが、今では大人の方が多いようです。

ブログ(タイトル「斑鳩より日々の記録」)は始めた頃、反応が分からないため、やっぱり、掲示板がいいなあと思っていました。それが、引っ越して行った方からコメントが入ったり、昔の友達が見ていてくれたり、この頃更新してないけど元気ですか？などのメールが入ったり、旅で知り合った方が見て下さったりとこんないいこともあるのです。

長年歩いていると、人や犬だけでなく環境にもいろいろ変化があります。楽しいことばかりではありません。でも、いろいろなつながりを大切に、今後も歩きたいと思っています。

*ブログ・・・ウェブ（ホームページ）のログ（日誌）を縮めた言葉

2月12日のブログに載せた題（仲良し）の写真です。（電線に止まった右スズメ 左ムクドリ）



会館の活動報告

2月例会 琵琶湖探鳥&ザゼンソウ

小田 久美子

2月25日(水) 参加者27名 観察鳥39種。

心配した雨に合うこともなく沢山の鳥たちを観ることが出来ました。冬鳥を観るには遅い日程と暖冬とが重なり、北紀行がはじまって個体数が減っていましたが、レンジャーさんのお話とリアルタイムの拡大映像とで、良く判って頂けたかと思います。

もう少し早かったら、コハクチョウの群れも多く、その中にアメリカコハクチョウがいました。オアシ、クロヅル、ヘラサギ、アカツガモ・・・と欲張れば切りがありません。その暖かさが幸いしてザゼンソウは最盛期に出会えたのですから。



《参加者の感想》たくさん書いていただきありがとうございました。掲載は一部です。

★入会して初めて探鳥会に参加しました。いつも琵琶湖岸を車で走りながら、漠然と冬鳥としてながめていました。それぞれの鳥にふれながら冬鳥の持つ特色をじっくり学びました。特に文様の美しさが心に残りました。与えられた運命のままに一生懸命生きる姿が美しかったです。寒い中に咲く座禅草にも魅せられました。 岸谷和代

★いつもながら小田さんの楽しい話が聞けあつという間の一日でした。この日を楽しみに、水辺の鳥ハンドブックで予習してきましたが一目見て特徴を捉えることができず、スコップを見てもウーンと首をかしげることばかり。今日の経験を生かし、もう一度ハンドブックを見て勉強します。見分けのつく水鳥カワウ・オオバン・ヒドリガモ・キンクロハジロ、オナガガモ収穫あり！ 平井志津代

★お天気がどうなるかと心配していましたが、うまく雨が止んでよかったです。水鳥センターは5年ほど前にコハクチョウは見れませんでした。今日はその時の心残りを見ることができてしかもタゲリまで・・・大満足でした。座禅草は全く初めてでしかもこんなにたくさん観ることができてよかったです。稲浦永子

★雨も上がり、久しぶりの鳥見も沢山の鳥たちに会えて楽しい会でした。最後の座禅草も珍しく、スケッチ倶楽部例会の土産話ができました。 柳原斉二



★なかなか鳥の名前が覚えられないが、今回オオバン・カンムリ・カイツブリ・オオヒシクイ・タゲリ等が分かるようになった。これからは少しずつ覚えていきたいです。 永井幸次

★中身の濃い鳥の観察会でした。ヒドリガモ・オナガガモ・マガモ・コガモ・キンクロ・・・顔と名前が一致できました。コブ白鳥を見ることができました。 八尋ハル

★野鳥観察のノウハウを学ぶにつけ、今まで無関心だった分野に大いに興味を持つようになりました。 「水鳥の波間に浮かぶむつまじさ」 鈴木末一

写真はいずれも弓場さん 提供

「忍辱山森林整備作業」が終了しました！！

かねてより進めてまいりました奈良市忍辱町国有林の「徐伐など整備作業」第三区画（ち班東海自然歩道添い およそ1.5ha）がこの3月17日の作業で完了しました。参加者13名一明石、板橋、川井、小森、塩本、寺田、中畑、古川、森、守口、安川、弓場、阿部。4月のような陽気でお昼には気温18度にもなる暖かい穏やかな日でした。直系60cmほどの枯死マツの大きさを、切り倒し最後の作業としました。平成16年3月12日に開始しまして、ちょうど5年間になります。3区画およそ4haを事故なく終了できたことを感謝しました。明るくなった林床に穏やかな日差しが射し込んでいます。午後全員が、ゴミ袋を片手に一周、研修などまたの再会もあることでしょう。

これまで多くの皆様のご参加ありがとうございました。

（阿部和生）



おじいさんは山へ柴刈りに

中畑 進

おじいさんは山へ 柴刈りに、おばあさんは川へ洗たくに……、昔話の常とう句です。だから私も おじいさんになった今、柴刈りに憧れます。しかし今は、どこにも「柴」を必要としない社会になりました。おかげで柴に火をいつけるマッチも身近にありません。あれだけ品数のあるホームセンターでも、「マッチ」を探すのは、一苦勞です。

物の自由化、金の自由化、人の自由化のおかげで、誰が日本人かわかりませんし、コメだけでなく、木も売れなくなりました。

山歩きをしますと植えっぱなしの間伐されていない 「おばけ」 も出るのもあきらめるような暗い森に出くわします。「奈良・人と自然の会」が、間伐・徐伐の勤勞奉仕されるといので、私も喜んで参加させてもらいました

忍辱山円成寺一帯の国有林一東海自然歩道を中心として、「寺田リーダー」のもと、五年間 月2回のペースで作業をしました。ヘルメット、ゴーグル、笛が「のこぎり・鉋」とともに必需品です。二人でチームを作り、声を掛け合いながらの作業です。はじめは円成寺の駐車場を借りていたのですが、どうも正式に借りていたのではなかったようで、ある日お寺の方が怒鳴り込んでこられ、ボランティア作業といっても維持していくことの難しさを感じたものでした。

昔、風呂の焚きつけに使った「オガクズ」というのは、大鋸（オガ）くず のこと、木端微塵（コッパミジン）コッパ役人というのは「木の端」（コッパ）からっ来ていること等生活と材木の深い関係なども、あらためて知りました。秋・冬は、弓場さんの作ってくれる「ふかひれスープ」も楽しみでした。

皆さん あまり60歳以前の職業については、話されませんが、それでも時どき昼休みに話が出て、作業服から思い浮かばないネクタイ姿が、垣間見えることがあります。薬剤師で全国各地の病院をまわっておられた人、シカゴに長くおられた人、鉄鋼マンとして活動された人、百貨店の人、呉服屋さんの人、国家公務員の人、皆さん30年、40年と一家を支えて苦勞をし、今、無償の労働をしておられます。

今回、5年を一区切りとして与作の作業を休み、里山作業に集中するようです。

また「チャンス」があり、体が動くようであれば参加させてください。

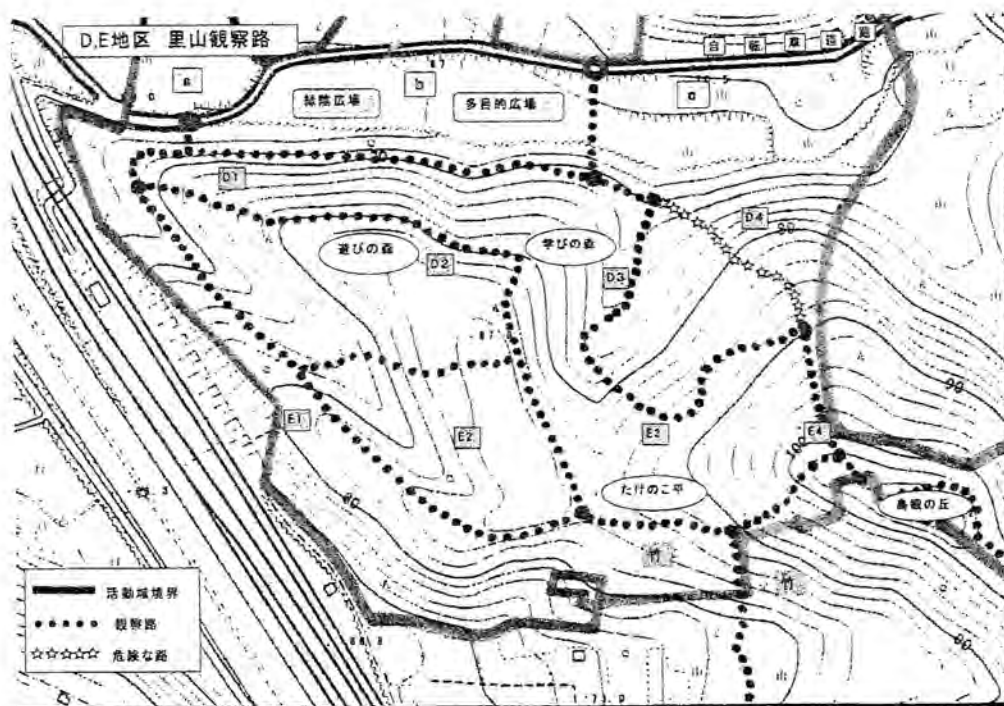
ならやまプロジェクト・レポート 21年3月

2月28日(土) 晴 参加者 42名(内 実習生6名、菜の花プロジェクト11名)

A地区山林の間伐、笹刈り、観察路整備、ジャガイモ植付け、学びの広場整備

- ・春本番を思わせる暖かさ。A地区は侵入竹林の整備がほぼ終わって、山裾の笹の刈払いを進めて3月の完成を目指す。畑作業は、ジャガイモの植付け。メークインなど約300本。早めに畝作りと施肥をしていたから、6月の収穫が楽しみである。
- ・菜の花プロジェクトの作業は草取りと土寄せ。早くも花茎が立ち上がっていて、作業にも熱がこもる。メンバーは春の日差しの中で、楽しそうにおしゃべりをしながら手入れに励む。中々、いい雰囲気である。
- ・シ大からの実習生受入れは、今回が最終回となる。参加者は延べ54人に達した。それなりに「ならやま」に魅力を感じた実習生も多かったようで、21年3月の卒業生で、当会への入会を希望された15名のうち、実習体験者は11名に上っている。
- ・先週、溜池復原のための水張りテストを行なったが、漏水が甚だしく、このままでは使えないことが判明した。池の底を修復した上で、再チャレンジする予定。

DE地区の観察路は新ルートの整備が終わり、今回は必要な案内板を設置した。懸案の簡易トイレ2基の設置も基礎地ならしが完了。(3月3日、搬入・据付完了)



3月7日(土) 晴 参加者61名 (内 メンバー25名、イベント参加者36名)

公開イベント「やってみよう しいたけ作り」(奈良市教育委員会後援)

- ・前日の雨も上がり、絶好のイベント日和。参加者は、児童23名保護者13名計36名。前回までに整備した「学びの森」がシイタケ菌打ちのメイン会場となる。今回のイベントでは、会員の平井さんを中心に、新しく入会された4名のフレッシュ・メンバーが担当。スケジュールは、午前中が椎茸の菌打ち、豚汁の昼食、午後は里山に入っのネイチャー・ゲームと続くが、参加者の興味と緊張感を途切らせることのないように工夫されていて、参加者には充実した一日となったようだ。担当されたメンバーの方が、事前に綿密かつ周到に準備された成果であり、ご努力に敬意を表したい。

- ・県の手配でa地区の田圃と湿地にトラクターが入る。ここでは、4月以降、田圃と、ビオトープ作りを進める。林、田畑、湿地などの里山全体をビオトープと見ることも出来よう。素晴らしいフィールドに恵まれ、インフラの整備、頼もしい新会員多数が参加され、「ならやまプロジェクト」はさらに進化する。(古川 祐司 記)

ならやま里山林プロジェクト「椎茸栽培体験」を終えて

渡辺 由紀

3月7日朝9時半、少し緊張して待っている私達に子供らの笑顔が近づいて来ました。今日は待ちに待った椎茸栽培体験の日です。私達とは昨年6月に奈良県林政課が主催する森林環境教育指導者研修を受講した、森川さん、平井さん、和田さん、港さん、渡辺の5人です。既に奈良・人と自然の会の会員としてならやまプロジェクトで活動していた平井さんを通じて、会長の阿部さんから声をかけて頂き今回の椎茸栽培体験が実現しました。体験プログラムの検討、案内状の原稿作り、説明資料作り、子供達への参加の呼び掛け、研修当日の役割分担など必要な準備は山ほどありましたが、日常の仕事とは違った楽しみがありました。

体験の大切な準備である原木になるこならの伐採、玉切り、椎茸菌の購入、奈良市教育委員会の後援申請、トイレの設置などは、阿部さん、古川さんを始めとする会員の皆さんの二ヶ月以上にわたる作業のおかげで順調に進み、体験の日を迎えることができました。さあ、椎茸栽培体験が始まりました。集まった小学生、幼稚園の子供達22名とお父さん、お母さん達14名の計36名の参加者を前にして、もう緊張している暇はありません。会員の皆さんの積極的な協力を得て、午前中はドリルを使っての穴あけ、駒うちとプログラムは進みました。そして昼ごはんには手作りの温かい豚汁に舌鼓。午後は子供達はネイチャーゲーム、お父さん、お母さん達は自然観察。子供たちの伸び伸びとした自然な反応に、指導する私たちは驚かされてばかりです。楽しい一日はあっという間に過ぎていきました。そして心配した事故もなく、来た時以上の笑顔で手を振りながら帰っていく子供達を見送ることができました。

このような楽しい経験を得る機会を与えてくださった阿部会長をはじめ、会員の皆さん、本当にありがとうございました。

私達全員が奈良・人と自然の会に入会しましたので、これからは皆さんの一員として一緒に活動させて頂くことになりました。どうぞよろしくお願いします。

なら山里山林自然観察レポート



* ならやま里山林花だより *

林 令子

3月7日(土) ナノハナ、ジンチョウゲが咲き出しました。山にはクロモジ、ヒサカキが咲いています。野ではヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ナズナ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、オランダミミナグサ、コハコバ 等が競い合って咲き、ツクシンボも遅れじと顔を出しました。

* なら山の鳥たち・3月 *

小田 久美子

寒暖の変化が大きな季節の変わり目、川瀬支部長は風邪でダウン。他の方も体調を壊されたのか参加者3名での観察となりました。ギャラリーが少ないと鳥たちも張り合いがないのか静かな観察会でした。でも観察後一時間の作業中に、菊川さんがオオタカらしき鳴き声を聞かれています。セグロセキレイ、ジョウビタキ、モズもちゃんと出て来たようです。4月からは夏時間・7時からの観察になります。「早起きは3文の得」振ってご参加下さい。

* ならやまの昆虫……………春 *

菊川年明

陽春が巡ってきました。成虫で越冬していた昆虫は次々に飛び出してきていますし、蛹の姿で越冬していた昆虫も次々に羽化して姿を現しています。

よく目につくのはやはりチョウ類です。ならやま周辺で成虫で越冬していたのはアカタテハ・ヒメアカタテハ・キタテハ・ルリタテハ・テングチョウ・キチョウ・ウラギンシジミ・ムラサキシジミなどです。また、蛹で越冬し、どんどん羽化しているチョウはアゲハチョウ・キアゲハ・モンキアゲハ・ナガサキアゲハ・クロアゲハ・アオスジアゲハ・モンシロチョウ・モンキチョウなどです。

間もなくベニシジミ・ツバメシジミ・モンキチョウなども現れます。4月中旬になるとツマキチョウが現れます。ツマキチョウはモンシロチョウを少し小ぶりにしたような羽の大部分がほぼ白いチョウで、オスの前羽の先端にオレンジ色に彩られた部分があります。少しの風にも流されるように弱々しくひらひらと飛びます。出現期間は2週間くらいの短期間です。モンシロチョウと紛らわしいので気づかれないことが多いのですが、花に止まったところが見られるとたいへん可憐なチョウだということが実感できます。タンポポの花によく止まります。

チョウの仲間では年に何回か発生を繰り返すもの（アゲハチョウ・ベニシジミなど）には春型と夏型があります。春型は概して小ぶりで色鮮やか、夏型は大ぶりで色彩の鮮明度が劣ります。

その他の昆虫ですが、花にはクマバチ・マルハナバチなどのハチ類・ハナアブ類、ハナムグリ・小型のカミキリムシ・カミキリモドキなどの甲虫類がやってきます。草むらでは成虫で越冬していた小型の昆虫を目にすることができます。ナミテントウ・ナナホシテントウ・ヒメカメノコテントウ・ヨモギハムシ・イタドリハムシ・カミキリモドキなどの甲虫類、ナガメなどのカメムシ類、キリギリス類の幼虫などが集まります。

地表にはきれいなナミハンミョウも姿を見せます。トンボの仲間ではサナエトンボ類が現れます。サナエトンボは稲が早苗のころに現れるトンボということでその名が付いたということです。シオカラトンボも出てきます。

5月になるともう昆虫のオンパレードですが、このころの昆虫は多くが小型の目立たないものです。そのうちに松林でハルゼミが鳴き出し、そして初夏を迎えます。

子供たちに人気のあるカブトムシ・クワガタムシ・セミ・ヤンマ・バッタなどが現れるのももう少し後になります。



(写真はツマキチョウのオスで、前羽先端の黒い部分の中の丸い部分がオレンジ色です。)



子孫から借りている自然だから

鈴木 末一

生命の惑星、水の惑星とも呼ばれている『地球』。その美しさを、宇宙船ボストーク号 3KA-2 (ボストーク 1 号として知られる) で人類で初めて宇宙へ飛び出した旧ソ連のユーリ・ガガーリン少佐が、「地平線が明るいオレンジ色になり、青、灰、すみれ、黒と、段々とニジのあらゆる変化を見せていた」という手記を書いてから 50 年余りが経過しました。その間、数百人の宇宙飛行士が、それぞれに宇宙から見た地球の美しさを感じとり、様々なメッセージを残しています。その中から、宇宙的視野で地球環境を考える「宇宙船地球号」の思想が生まれました。

日本人で初の宇宙飛行士であり、世界で初めての宇宙特派員となった秋山豊寛さんは、「やっぱり青いですね」と伝えてきました。地球を一周しながらの感想でした。「やっぱり」というのは、ガガーリン少佐の手記『地球の色は青かった』の中の「まるで宇宙に浮かぶ青い真珠のようだ」を思い出しての言葉だと思います。穏やかな大気、恵みの雨、すべての生物のふるさとである海、生命の楽園である熱帯雨林、このような宇宙のオアシスというべき地球を作り上げている環境資源が、ヒトというわずか一種類の生物のために、いまや生命を育む源からその様相を一変し、悪化の一途を辿りつつあることは、誰もが認識しているところです。

理科の学習のまとめとして、環境問題について生徒たちの意識がどの程度まで高まり、関心を持っているだろうかという狙いで『自然と人間とのかかわり』というテーマでリポートを提出してもらったことがあります。どのリポートからも、真剣な眼差しで環境問題に立ち向かおうとする姿勢を読み取ることができました。その一部を紹介してみますと、

あるインディアンが言った言葉に、「この自然は、祖先からもらったのではなく、子孫から借りているのだ」があります。この言葉を常に頭に置いて、未来の地球を守る方法を真剣に考えていかなければなりません。どんなに小さなことでも実行していく時期にさしかかっていると思います。人間の知恵を破壊へ使わず、森林を守り広げていくことに働かせていきたいものです。・・・

「保全は身近かな点検から」という言葉をよく耳にします。まさに今、私たちの身の回りに環境問題が山積しています。世界各国でも環境保全のための施策や事業が、色々考えられ取り組まれています。しかし、環境の問題は、地球上の人々が、それぞれ自分自身で環境の悪化を感じない限り、世界規模での解決はできないのでは・・・。

ならやま里山林のイベントに参加する多くの子供達が、「子孫から借りている自然だから」を合い言葉にして、環境保全についての意識を高めてくれるとともに、ロマンに満ちあふれた史実をひもといてくれるきっかけになればと願っています。

百聞は一見に如かず。百見は一体験に如かず。「継承」という二文字の重さを感じる日々です。

く癒しの散歩道

春へのいざない

谷川万太郎

見上げる空の蒼さに揺る山裾に砂嵐にも似た雲煙が白く舞い揺がり
霞の中を春の鳥が飛び交い若葉匂う緑の本陰が春の訪れに顔をほころばせる
産声を上げた雛の餌を探してさ迷いながら親鳥がコンニチワと挨拶をすると
見下ろす川辺の畔陽だまり浴びてきらきら光る水の流れに鴨の親子は遙か遠く
風薫る音に泳ぐ童の唱と雲雀の口笛が輪唱で澄んだ空気も黄色になった

里山林の侍たちとお局さん（Ⅰ）

川井 秀夫



07'春。幹事会の席上に小嶺 敏勝 氏より、県有地の景観整備作業の情報が寄せられ話はトントンと進み、当会が受託する事となる。佐保台・奈良阪に跨ぐ7haの放置された県有地が対象域となり、山地・畑地・草地・竹林と、棚田とは一味違う平坦な地に里山風景が広がりを見せ活動の場となる。

今回は緒についたばかりの地に、回想を追うほどの時間的経過も無く、活動現場の人物群像を私の視点で紹介したいと思います。失礼の点はお許しを。

古川 裕司 氏（現 幹事）。この方と会ったのは「いこま棚田クラブ」で竹炭の焼却炉の建設現場だったと記憶する。なかなかの理論家で、自説を曲げないやや剛直なところは、この方の信念と自信の現れとも。妙に説得力があり、柔和な雰囲気呑み込まれるのは人徳の為す所以でしょう。

里山林に、いち早く「ならやま里山林 P T」を立ち上げ、自らGMとして指導力を発揮して頂いている。酒を愛し食通でもある、その博識振りに敬服しております。

佐保台の住宅地域から参画して頂いて居る水本 遼真 氏（現幹事）平井 隆造 氏ご夫妻、塩本 勝也 氏。地域住民の懸け橋として心強く大いに期待致しております。

塩本 氏は六尺豊かの偉丈夫。山仕事グループで存在感を発揮されており、黒沢 明「七人の侍」の三船 敏郎 扮する「菊千代」を彷彿させる助っ人とお見受けする。

鳥井 繁夫 氏も異色な方である。いつもチェーンソーを片手に倒伐に威力を発揮、寡黙な人柄と風貌に「三匹の侍」の長門 勇が槍を持ち替えた剣客の姿を想像しております。一寸と古いかな。

この他にも個性豊かな方が多く、四国遍路の先達 森 英雄 氏、山好きの新人 安川 和男 氏、竹本 雅昭 氏、笹叢の整備に刈り払機を一心に駆使する 中畑 進 氏、畑地ではミニ テーラーの操作も板についた古川 浩 氏、マイ畑に余念のない長老 樋口 善雄 氏、黙々と佐々木達裕 氏、田中 暉英 氏ら・・・。

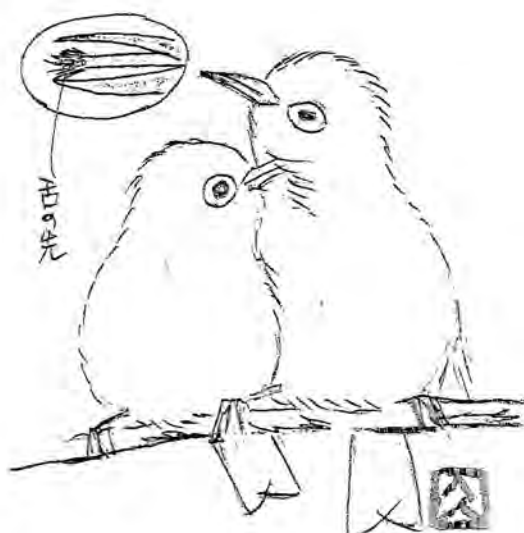
異色と言えは、菊川 年明 氏。昆虫少年の面影が残る虫 博士。専門家も顔負けの研究心、被写体を追う活力は驚異であり、今シーズンも話題を提供して下さい。

鈴木 末一 氏。元 校長さん。奈良 高野連の重鎮。野球の指導で足が少しご不自由の様だが、当地の元 地主さんのご子息で教えを乞う事も多く、活動の標（シルベ）の製作に骨を折って頂き、また一人 自然の匠が増えた喜びを感じております。

とにもかくにも素晴らしい仲間が日に日に増えて、侍たちの志（さむらいの下に心と書く）がある限り、この楽園が老化する事は無いと信じております。

次回はお局さんをご紹介します。

昔から、『梅にウグイス ホーホケキョ』と云われますが、梅に来るのはメジロだということをご存知ですね。梅や椿などの花の蜜を吸い易いように舌の先が筆状になっています。甘いものが大好きなメジロは、学名が「Japanese White-eye」淡い緑色の小さな身体に白いアイリング、チーチーと鳴き声も可愛い小鳥です。江戸時代から鳴き合わせを競って今も密猟される鳥です。「長兵エ チュウベエ 長チュウベエ」を高音で早口言葉のように云うと雰囲気が出ます。仲良く並んで枝に止まっている様子から「めじろ押し」という言葉が由来しました。話が逸れますが目白は東京の地名にもあります。同じく地名に目黒もありますが鳥にも小笠原特産の「メグロ」がいます。3月には勝田さんがメグロに会いに行かれましたが、如何でしたか？ 乞う続編。



自然俳句欄

北へ帰る鳥見送って坐禅草

古川祐司

早春の沼に咲くザゼンソウ、
北帰行に飛び立つ冬鳥の姿と
季節の変化を感じた一日でした。

なぜ待たむ山は虚ろに鳥帰る

秀夫

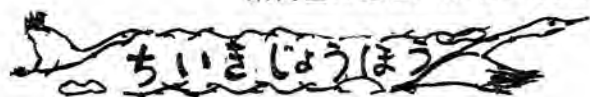
2月例会。お目当てのオオワシは二日前に北帰行。
コハクチョウも旅支度か。無心に畑地を啄む。
琵琶湖を一周し、水禽の姿に堪能する。

おわ

浄土かな如来も在す坐禅草

秀夫

薄暗き湿地に花芯が一隅を照らす如し。
大きなものは如来、小さいものは菩薩だろうか。
茶褐色の花苞が浄土の雰囲気醸す。



★[斑鳩より] 3/19 ツバメの初認。(昨年は 3/28) ハシボソガラス卵を抱いているようです。
スズメが枯草を忙しそうに運んでいます。ジョウビタキ♂の水浴びを初めて見ました。
桜も咲き始め、春ですね。(勝田)



＊原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止＊

『ならやま里山林プロジェクト4・5月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内図が入用の方は、問合せ先までご連絡下さい）

日時 4月11日（土） 菜の花祭りと野草料理 ＊（マイカーは自粛）
4月13日（月） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
4月17日（金） 一般活動日
4月22日（水） ならやま山の日（里山整備）
4月30日（木） 雨天予備日
5月8日（金） 一般活動日
5月11日（金） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
5月14日（木） ならやま山の日
5月23日（土） 一般活動日
5月31日（日） 予備日

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：30発 JR 奈良行

①②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品 弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、防寒対策

＊環境保護のため、コップ・箸・碗は各自でご用意下さい。

活動内容・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成

畑作業は、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

＊自由活動日について

当面、火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は幹事まで。

＊4月11日「菜の花祭りと野草料理」について

ならやまの復旧田に植えられた菜の花を、プロジェクトメンバーと一緒に愛でながら、春の香りいっぱいの野草料理を楽しみたいと思います。

会員の皆様、この機会にふるってご参加下さい。

なお、当日は、かなりの混雑が予想されるほか、アルコール類も出しますので資材運搬用の車を除き、マイカーでのご来場を自粛いただきたく、ご協力をお願いします。

（問合せ先： 担当幹事 古川

小嶺

ならやまの野鳥観察 ＊夏時間に変更します。ご注意ください。

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

★日程：4月13日（月） <毎月第2月曜日>

☆出発時間・場所：7時・ならやま駐車場 ＊4～7月は早くなります！

★観察場所：里山林散策路内の定点及び定線観察

☆持ち物：双眼鏡・飲み物・歩きやすい服装・マイコップ（弁当・雨具は適宜）

★小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

☆担当者：小田

・ 菊川



4月例会 花の郷 平群を訪ねる

すでに桃源郷は花いっぱいです。みなさんのお越しをお待ちしています。

日 時： 平成21年4月3日(金) 午前10時 *予備日4月7日(火)

集合場所： 近鉄生駒線平群駅前

近鉄鶴橋 9:10・・・生駒駅乗換 9:29・・・平群 9:44

天王寺 9:10・・・王寺乗換生駒線 9:36・・・平群 9:44

大和西大寺 9:14・・・生駒乗換 9:29・・・平群 9:44

予定コース：平群駅 10:10→つばり山古墳→白山神社→コブシの谷→鉄砲池（昼食）→

富貴畑→元山上駅 2:30 分頃

担当幹事： 小嶺

勝田

<5月の予定>

第8回 通常総会のご案内

日 時：平成21年 5月24日（日） 午前10時より

会 場：奈良市 中部公民館 第4講座室

奈良市上三条町23番地の4 TEL：0742（26）6506

会次第：① 第8回 通 常 総 会 10:00am～12:00

② 奈良まち散策と元興寺を訪ねる 1:00pm～

・ 会員皆様のご参加をお待ち致しております

* 委任状をご提出された方でも「ならまち散策」にはご自由にご参加ください。



5月度例会

ハツ房スギから青蓮寺

昨年度、7月に開催の予定が降水確率80% のため中止しましたが改めて実施いたします。桜実神社の境内に数本の巨幹が、あるものは上方に、あるものは水平に伸びる複雑な樹形を持つ推定樹齢2000年・全周囲が13.5mのハツ房スギ（国指定天然記念物）や世界のカエデ・モミジが1200種・3000本も成育する「宇陀市カエデ園場」を観察の後、世阿弥の謡曲「雲雀山」の舞台、中将姫が建立した尼寺『日張山・青蓮寺』を巡ります。

日 時： 5月26日（火） *予備日・ 5月28日（木）

集 合： 近鉄榛原駅 南口 バス停留所 午前9時10分

コース： 歩行時間 約3時間30分（楽々コースです。）

近鉄榛原駅（バス）桜実神社前→桜実神社・『ハツ房スギ』→「宇陀市カエデ園場」

→「日張山・青蓮寺」→「真証寺」『無渋力ヤ』→宇賀志（バス）近鉄榛原駅

担 当： 弓 場 厚 次

高 橋 弘 志

* 交通等の詳細は会報：5月号に掲載いたします。

社会貢献事業第20回「アースデー2009in なら」スタッフ募集!

例年参加しておりますアースデーに本年もタケワークで出展します。当日のスタッフを数名募集します。*初めての方も指導しますので積極的な参加をお待ちします。

開催日時: 4月19日(日) 9:30~15時

開催場所: 奈良県流域下水道センター 自由広場

近鉄橿原線「ファミリー公園前駅」下車すぐ

担当幹事 小嶺 敏勝

平成21年3月度幹事会議事録

日時: 3月10日(火)

場所: 中部公民館

司会板橋 記録明石

報告事項

- ① 会員数 131名(21年度入会申込者含む)
- ② 2月度例会 「湖北探鳥会とザゼンソウ」 参加者27名(欠席1名) 探鳥39種
- ③ 忍辱山森林整備作業 2/17(火)8名。3/17最終作業の後「ゴミ拾い」予定。
- ④ ならやま里山林プロジェクト 2/6(山の日)18名、2/9(鳥の日)12名、
2/12 30名、2/13(臨時山)10名、2/28 42名。
 - ・ 学びの森、鳥観の丘、遊びの森→看板設置、トイレ2基設置
 - ・ A地区 笹刈り完了、田んぼ跡→水を張り耕起を県に依頼、西南部→池・赤米
- ⑤ しいたけづくり in ならやま
県森林環境教育受講終了者(平井さんはじめ5名)主導で取り組み、成功裡に終わる。
3/7 佐保台小28名、一般(公報)8名 計36名
コナラ櫓木100本、ドリル穴明け・しいたけ菌打ちを行う。ネイチャーゲーム。
- ⑥ 生駒市イモ山公園、里山林研修会講師派遣
森林養成講座(3回目)実習体験に講師派遣要請あり。6名派遣。
- ⑦ 能登の千枚田(一泊研修)

期日: 6/10~11 宿泊場所: TKR金沢(兼六園隣)28室確保

・ 4/19アースデー 竹ワークで参加、対応は最低4名が必要。4月幹事会で確定。

確認事項① 21年度年間スケジュール(例会)テーマ決定② 3~6月 定例行事の確認

③ 総会 5月24日(日)午前10時~<奈良中部公民館>・午後「ならまち散策」

討議事項・21年度「総会」運営・組織体制、インタプリテーション講座等を討議。

・ 3/31(火)「ならやま」についての意見交換を行います。

編集担当: 勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生